

平成 22 年度第 7 回 (91 回)

清瀬市まちづくり委員会議事要旨

日 時：平成 23 年 1 月 18 日 (火) 午後 2 時から

場 所：中清戸地域市民センター 多目的ホール

出席者：大森靖史、阿久津たか子、伊藤晃、三木克子、佐藤隆史、原友里恵、  
小林倫子、宮城敬子、中西宣長、増田恵美子、佐藤勝栄、齋藤徳次郎

事務局 (市民協働係長、企画課主事)

欠席者：加藤春芳、石川由紀子、島崎豊茂、大久保實、今瀬千佳子、鈴木晃、  
円城寺修、神吉正代

<配布資料>

- 1 【参考資料】第 7 回まちづくりフォーラム次第
- 2 まちづくり提案審議 進行表

## 1 開 会

## 2 前回の確認

委員長：前回議事について何か意見はあるか。

<特になし、前回議事承認>

## 3 提案審議

委 員：ここ数回、欠席者が多いので、なんらかの対処をするべきだ。第一回の委員会で話のあったような、公募委員と団体委員の任期の変更等を検討した方がいいと思う。

委員長：その件については現在事務局と検討している。次回には案を示せると思う。では審議に入りたい。本日は提案 21-6「清瀬市まちを美しくする条例」活性化」の提言書の案を示している。これについて何か意見

はあるか。

<特になし、提言書承認>

委員長：次に提案 21-8「公園の整備（美化）を市民の手で」の回答文の案について何か意見はあるか。

委員：回答文の中にある計画の該当部分は、添付するのか。

委員：添付した方がよいのではないか。

委員長：では該当部分を添付して回答するという事でよろしいか。

<了承>

委員長：次に提案 NO.1「子供たちにやさしい公園」の審議に移りたい。

#### 提案要旨

清瀬駅南口方面は子供たちが安心して遊べる遊具施設が少ない。中央公園にはすべり台があるが危なく、昼でも暗い。北口方面のころぼっくるは外はとても広いが、結局遊び道具が少ししかないため、天気の良い日でも屋内でしか遊ばせられない。

以上のことから、清瀬市にある子供たちの公園施設をもう一度見直してほしいと思う。子供たちはいろんな道具がある公園が好きだ。安全面も含めて検討してほしい。

委員：中央公園が「すべり台があるが危ない」「昼でも暗い」とあるが、実態がどうなのか詳しくはわからない。ただ、現在寂しいことになっているのは事実なので、活性化することは必要だと思う。

委員：中央公園が老朽化しているということもあると思うが、おそらく中央公園の遊具が小学生向けで、未就園児童向けではないのでどうにかしてほしいというのが提案者の意図していることだと思う。公園の提案はいろいろ審議してきたが、それでもこのような要望があるのは、自分の子どもの年齢にあった公園がどこにあるかわからないからだと思う。そこで、もう少しくわしい情報を記載した地図を作ることを検討した方がいいのではないか。

委員：一次回答として公園の地図を添付して回答すればいいのではないか。

委員長：では以前あった「自転車の練習ができる公園がほしい」という提案のときの回答を参考に、公園の地図・一覧表等を添付して回答するという方向でよろしいか。

<了承>

委員：中央公園の活性化もこの際、推進していくことを検討した方がいいと思う。

委員長：次に提案 21-9「まちづくりリーダー制の導入と育成を」の審議に入りたい。

#### 提案要旨

まちづくりリーダーとは、老若男女問わずそのまちの地域力再生や地域活性化、安心・安全に暮らせるまちづくりに貢献する人とする。

活動は基本的にボランティアで、活動範囲は、例えば中里地区、元町地区、竹丘地区等の町ごとに区切っても、小学校区等の範囲で区切ってもいいと思う。

活動内容は、地域の防犯を考える防犯リーダー、地域の子ども達とゲーム等を企画し楽しむスクールリーダー、高齢者への声かけや困っている事等を解決するハイエイジリーダー、地域の公園の美化・整備をする公園リーダー、地域の防災活動や市とのリスクコミュニケーションを図り地域に周知する防災リーダー等である。その活動内容を細かくする事によって、リーダーの負担も少ないと考えられる。

リーダー同士がコミュニケーションをとることによって、地域の活性化やコミュニティの広がりにもつながると思う。

又、自転車マナー向上や子ども達の見守り、市内道路やけやきロードギャラリーの美化もその活動に加えることも考えられる。

ご一考いただきたい。

委員：通常だとこの提案にあるようなことは自治会が行ってきたのだと思うが、最近は自治会に入ろうという方が減ってきているので難しいのではないか。

委員：自治会は機能していないが、情報を回してもらうのはありがたい。自治会は、必要か必要でないかでいうと必要なものなので、できれば行政が統括するなどの対応をお願いしたい。

副委員長：円卓会議に参加して、すぐ近くの自治会のことも知らないことに気づいた。いろいろな会議に参加すると、縦のつながりがあるが、横のつながりが少ないことが分かる。

委員：ゼロから自治会のようなものを立ち上げるのは無理だと思う。

委員：円卓会議とはどういうものなのか。また、自治会との関わり合いはどのようなものなのか。

事務局：円卓会議は平成17年に六小地区をモデル地域にして、その地域のリーダー的存在の方に集まってもらって、地域の課題解決をする場として市から働きかけをしたことから始まった。現在は七小まで手を広げている。六小での取組みには東京都から表彰された見守り隊、防犯・防災マップの作成、住民交流会の開催などがある。七小での取組みは昨年1月からはじまり、これまで清高付近の五差路の電柱に「とび出し注意」の看板を設置するなどの取組みを行っている。自治会については、現在市内には191の自治会があり、市からは一斉清掃の通知などを送付している。各自治会でどのような活動をしているかまでは把握していない。自治会に係る制度としては、集会施設への補助などの制度がある。

委員長：地域活動をしたいと思っている人は多いので、何かきっかけがあればいいと思う。

委員：円卓会議のように学校を単位としているならPTAを動かせばよいのではないか。

委員：自治会連合会があっても、自治会長にあいさつに回るときなどに、自分がどういった者なのか一から説明しなければいけないことがある。そういった時は市から何か認定的なものが必要であればいいと思うことはある。

委員：では六小でやっている円卓会議のようなものを足がかりにして、何かをやるということでまとめられるのではないか。

委員：この提案を読むと育成をしたり認定をしなければいけないのかと思うが、その場合誰が育成をしたり認定をしたりするのか決めなければいけない。

委員：組織を新たに立ち上げるのは難しい。しかし提案されている内容は円卓会議ですでにやっていることであり、また、その地域にやる気の下地がないといくら上から制度をつくっても意味がない。だから六小を例に出しつつ、そういった活動を広げていくという方向の回答しかできないと思う。

委員：自治会が191あるなら、自治会が横の連携をとれるような働きかけをすればよいのではないか。

委員長：残念ながら多くの自治会長は自分の任期中は何もないように思っているのが現状だ。

委員：やはりいきなりリーダー制をつくってもついていけないと思う。円卓会議の取組みを地道に広げていくことを考えた方がいいと思う。

委員：提案名に即した回答にするか、内容に即した回答にするのかははっきりさせたほうがいい。

委員長：六小の円卓会議に関わっている立場から言うと、六小の円卓会議をあまり成功例としてとらえてほしくないと思っている。円卓会議にリーダーがいるかということそうでもない。例えば災害があった時に誰が指揮をとるかということも決まっていない。そういったときのために、リーダー的な役割を決めておく必要はあると思う。

委員：この文面だけでは提案者がどこまで意図をしているのかわからない部分がある。

委員長：では提案者に確認するということでよろしいか。

<了承>

#### 4 その他

今年度まちづくりフォーラムについては、5月に開催する方向で検討していく事に決定。